

EY Difference

キャリア案内

EY新日本有限責任監査法人





Whenever you join,
however long you stay,
the exceptional EY experience
lasts a lifetime.

変化に対応し、一緒に未来を創っていきたい

プロフェッショナルとして働く喜び

皆さんは、公認会計士の仕事にどのようなイメージを持っていますか？

公認会計士は、会計・監査のプロフェッショナルと言われますが、表舞台で派手な役回りを演じることはあまりありません。しかし、『監査および会計の専門家として、財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者および債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与する』という大きな役割を担っています。また、非財務情報に対する関心が高まるなど、公認会計士の活動領域はますます拡大しています。変化が激しく先行きの不透明なこの時代に、必要となる変革を厭わないリーダーシップを発揮して、特定の利害関係者に対する部分最適に限定せず、社会全体の期待に応えていけることは、大きなやりがいにつながります。真のプロフェッショナルとして、一緒により良い社会創りに貢献していきましょう。

EY ってどんなところ？

上記で述べた公認会計士の社会的使命を担いつつ、皆さんがやりがいと手ごたえを感じながらプロフェッショナルとして充実した人生を送っていける場を見つけることは、難しいことだろうと思います。私自身、受験生時代に「どのような仕事や職場が自分に向いているのか」を特定することはなかな

かできませんでした。やってみなければわからないことは多々あります。ただ、就職活動中に「自分は何をやりたいのか」「それは社会にどう役立つのか」自問自答を繰り返したのには良い経験だったと記憶しています。

「やりたい仕事」や「自分に合った仕事」がどんなものかを考える時、実際に日々業務に従事している人たちから話を聴くことは、自分がその場にいたらどんな働き方をしていけるのか、より具体的に思い描く大きな助けとなるでしょう。そんなお手伝いをするために、次頁以降でEY新日本有限責任監査法人（以下、EY新日本）のメンバーを紹介しています。それぞれのメンバーがどのような思いを持って現在の仕事に取り組んでいるのか、ぜひ読んで、自分にあてはめて想像し、考えてみてください。この冊子で紹介されているメンバーは皆、失敗を恐れることなく、自ら考え、行動し、挑戦し続けている自律型人材モデルとして紹介されている人たちであり、その経験から紡ぎ出された言葉の数々は皆さんの職場選択にあたり有用な情報になるものと信じています。

EYは、自分で考えられる人材、自分で行動していける人材を求めています。間違ってしまう時、失敗をしてしまう時もあるでしょう。その時はチーム全体でフォローし合っていけば良いと考えています。プロフェッショナルとしてのリーダーシップと、お互いを補完し合えるフォローシップを兼ね備えた、社会に有用な専門家集団でありたいと努力し続けています。そんなEYの一員に、あなたもなってみませんか。

鈴木 裕司
常務理事 人材開発本部長

※2022年7月1日現在

EY People Career Map

キャリアマップ

本冊子内に登場するメンバーが今まで経験した業務や分野をご覧ください。取り組めるフィールドは幅広く用意されています。それぞれが興味のある分野へと活躍の場を広げる中で、以降のページでは各メンバーが直近で従事している業務の一部をご紹介します。

○は専門・得意分野 ●はこれまでに経験した業務・活動

※1 FAAS:財務会計アドバイザーサービス ※2 Forensics:不正調査・不正対策・コンプライアンスに特化したサービス ※3 CCaSS:気候変動・サステナビリティ・サービス(2022年6月現在)
 ※4 SaT:戦略およびM&Aアドバイザーサービス ※5 EY Ripples: EY がグローバルで取り組む社会貢献活動 ※6 EYフレリモ:フレキシビリティ高くリモートワークも活用した働き方を推進する施策

本誌内掲載ページ	メンバー	事業部	職階	国内監査	金融	パブリック	グローバル	IPO	デジタル	FAAS ^{※1}	Forensics ^{※2}	CCaSS ^{※3}	SaT ^{※4}	地区	EY Ripples ^{※5}	EY フレリモ ^{※6}	業種、業界	その他活動		
6.7	 Y.Saito	第2事業部	スタッフ	●												●	メディア・エンターテインメント			
8.9	 K.Mizoguchi	金融事業部	シニア	◎	◎			●								●	●	アセットマネジメント		
10.11	 A.Suzuki	第4事業部	シニア	◎		◎	◎	●										パブリック(ヘルスケア)、テクノロジー、消費財	執筆	
12.13	 T.Matsumoto	第5事業部	シニアマネージャー	◎			◎		●								●	モビリティ(自動車)	海外駐在、執筆	
14.15	 Y.Yoshida	企業成長サポートセンター、第3事業部(兼務)	シニアマネージャー	◎			●	◎		●							●	テクノロジー、不動産業、小売業、製造業	執筆、研修講師	
16.17	 Y.Kai	第1事業部	パートナー	◎			◎	◎	●									●	化学(ナレッシュリーダー)	公認会計士協会活動
18.19	 A.Murata	Forensics事業部	マネージャー	◎	●		●			●	◎							●	テクノロジー、ソフトウェア	外部出向、執筆、研修講師
20.21	 N.Ichihara	アシュアランスイノベーション本部	パートナー	◎	◎		◎		◎										銀行・証券	海外駐在、執筆、外部講師
22	 T.Koizumi	第1事業部、アシュアランスイノベーション本部(兼務)	シニア	◎			●		◎									●	化学	GradLab
23	 Y.Furubayashi	CCaSS事業部	シニア	◎			●	●				◎					●	●	消費財・小売、テクノロジー、製造業(工作機械・半導体他)	研修講師
24	 M.Morioka	EYストラテジーアンドコンサルティング	コンサルタント	◎			●	●		●			◎	◎			●	●	モビリティ(自動車)、製造業、消費財・小売 など	研修講師、海外語学研修
25	 R.Nishizawa	EY上海	シニアマネージャー	◎			◎	◎											メディア・エンターテインメント、テクノロジー、製造業 など	海外駐在、法人内出向
26.27	 Y.Amano	大阪事務所	シニアマネージャー	◎			◎		●					◎					小売、ライフサイエンス、モビリティ(海運業・自動車)、化学	
26.27	 M.Katayama	名古屋事務所	マネージャー	◎		◎								◎			◎		建設、製造業、パブリック	海外語学研修

メンバー紹介

2020年入社
第2事業部
スタッフ
Y.Saito



プロフェッショナルとして輝く生き方のために

自分ならではの強みを身に付けたい

大学に入学し、将来のために何か“武器”を身につけたいと考えたときに知ったのが公認会計士という資格でした。男女の別なく長く活躍できる点に惹かれ、ぜひ自分もこの道を目指したいと思ったのです。高い専門性を身に付けたプロフェッショナルというイメージへの憧れもありました。EY新日本を志望したのは、業種（セクター）ごとに事業部が分かれているために担当する業界への知見を深められると感じたからです。特定の業種、業界に精通していることは公認会計士としての自分の価値を高めることに通じ、“武器”をさらに磨くことができると思いました。入社前には学生非常勤として第2事業部に

2カ月間勤務。その間は業務の基本的な進め方や監査ツールの使い方などを学びました。私にとっては常勤として本格的に働く前の準備期間という印象で、社会に飛び立つ前のちょうどいい滑走ができたと思います。

専門性を発揮してクライアントに貢献する

入社後は引き続き第2事業部に所属し、メディア、製造業、IT系の企業の監査業務を担当しました。生活に身近な企業が多いため商材やビジネスモデルへの理解もしやすく、親しみを持ちながら監査に臨むことができました。働き方は、先輩と共に往査先に向かう日と、リモート



ワークで調書作成を行う日が半々といったところ。往査ではクライアントとのコミュニケーションの取り方を先輩に学び、在宅勤務の際は定時の報告を通じて先輩からきめ細かくアドバイスをいただいています。調書を作成し、レビューの際に「ありがとう、助かった」という言葉をいただくとチームに貢献できた喜びが得られ、成長を実感します。私はまだクライアントと直接やりとりする機会は少ないものの、会計処理について専門的なアドバイスを行ってクライアントから感謝の言葉をいただいている先輩の姿には、公認会計士ならではのプロフェッショナルリズムを感じます。いずれ私も主査となり、クライアントの経営陣と直接ディスカッションすることも増えるでしょう。先輩同様、胸を張って対応できるよう、知識を磨いていきたいと思えます。そして何か1つの分野でいいので「あなたに聞

けば大丈夫」と言ってもらえるような、自分ならではの強みを身に付けていきたいと考えています。

自分にとって最適なワークスタイルを

高い専門性を生かして生涯働きたいと考えて選んだ公認会計士の道ですから、女性が活躍するための制度・環境が整っていることもEY新日本への入社決め手となりました。育休取得後に復職し、子育てをしながら時短勤務で活躍中の先輩の姿は、ここでは当たり前存在。在宅勤務もごく自然に行われています。こうしたロールモデルの多さに加え、一人ひとりが自分にとって最も良いワークスタイルを主体的に選び、その実現をEY新日本が支援してくれるから、多様な働き方が可能になるでしょう。公認会計士の仕事は繁忙期と閑散期がはっきりしており、メリハリのある働き方ができます。長い夏休みなど、充実したプライベートを楽しめるのは大きな魅力です。そんなゆとりの時間を大切にしつつ、私らしいワークスタイルをEY新日本で実現し、長くプロフェッショナルとして活躍したいと考えています。



MESSAGE

自分を信じて
頑張ってください!



第2事業部

食品、衣料品などの消費財、テレビ局や出版社などのメディア系、ゲームなどのエンターテインメント系企業を中心に、メーカー、IT系のクライアントに向けて、監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。業界特有の知識・知見を深めることで、より質の高いサービスの実現に努めています。

CAREER

- 2020年
入社。
2カ月間学生非常勤として勤務したのち入社。第2事業部に配属され、メディア、IT系、製造業等さまざまな業種の監査業務に従事する。リクルート活動にも関与。
- 2021年
引き続きメディア、化粧品会社などの上場企業を中心にコアメンバーとして監査業務に携わる。

メンバー紹介

2016年入社
金融事業部
シニア

K.Mizoguchi



金融の高度な専門性を磨きつつ、 多様な経験も積み成長する

資産運用業界の 健全な成長を支えたい

私が所属する金融事業部のWAM（ウェルス&アセットマネジメント）セクターは、主に資産運用業界に特化した専門家集団です。数学が得意だった私は学生時代に公認会計士の道を志すことを決め、卒業後に本格的に勉強を始めましたが、その際に考えたのが、自分ならではの強みを持った公認会計士となるために、特定の分野に精通したいということでした。金融が面白そうだとは思っていたのですが、銀行の監査にとどまるのではなく、投資信託やファンドなどにも携わりたいと思ったのです。そんなとき、EY新日本

の説明会でWAMセクターのことを知り、ここでぜひ専門性を磨きたいと考え、入社を決めました。投資家から資金を預かって運用するのが、資産運用業界です。貯蓄から投資へという社会トレンドの中、資産運用業界の監査を通じて投資家が安心して資金を預けられる環境を整えることに、公認会計士としての大きな責任と社会的使命を感じています。

枠にとらわれず、 さまざまな業務に挑戦する

投資信託（ファンド）を一つの箱とすると、その中には株式や債券、デリバティブなど多様な金



融商品が詰まっていて、運用のプロが運用を担当しています。私たちが行う監査はその箱全体を対象とすることになり、多くの科目を一人で見るという醍醐味があります。WAMセクターならではの面白みでしょう。一方、FinTech企業のIPO支援に携わったり、年金運用受託会社の内部統制（SOC）に係る保証報告書のチェックを行ったりと、幅広い業務も担当。さらには「公認会計士である以上、一般の上場会社の監査も経験したい」と上司に相談したところ、東証1部上場の信販会社の監査も担当できました。このように枠組みにとらわれることなくボーダーレスに業務に挑戦できるのが、EY新日本らしさです。それが可能なのも、業界No.1として多くのトップ企業をクライアントに擁しているからにほか

なりません。もちろんそうした環境を自分の成長のために生かすには、自ら案件に飛び込んでいく主体性、積極性が必要なほうまでありません。

次世代人材への 金融リテラシー教育も

幅広い活動ということで特にご紹介したいのが、企業の社会貢献プログラムとして行っている「EY Ripples」の取り組みです。その一環として中高生教育支援プロジェクトを展開。私は都内の中学校に赴き、公認会計士としての目線で、中学生の購買活動をアドバイスしました。日本では若い世代への金融教育が欠けていると感じており、中学生たちに金融リテラシーを身に付けてほしいとの思いがそこにありました。数年後、私が教えた中学生の中からEY新日本に入社する人材が出てくれたら、嬉しく思います。私自身は、これからもWAMセクターの業務を通じて、資産運用業界に精通したプロとしての道を歩んでいきたいと考えています。



MESSAGE

皆様にお会いできる事を
楽しみにしています。



金融事業部

銀行、証券、保険、アセットマネジメントの各金融分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、長く業界のNo.1として総合的な金融サービスを提供。EYの強みであるグローバル業務やアドバイザー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多様な業務経験や高い専門性を得られる業務領域が広がっており、業界の最先端を走り続ける「EY金融」会計士のキャリアの可能性はますます高まっています。

CAREER

- 2016年
入社。
第1事業部に配属され、主に製造業を営む会社の会計監査に従事。その後、金融事業部WAMセクターに異動。損保系アセットマネジメント会社のファンド監査および信託銀行のSOC業務に従事。
- 2017年
メガバンク、信託銀行、運用会社のSOC業務および、ファンド監査に従事。運用会社などの会計監査も担当。
- 2018年
主にファンド監査を担当。関与する運用会社のSOC業務において主査を経験。また、IPO業務や、東証1部上場の信販会社の会計監査を経験。さらに有志で教育支援に参加し、中学生への会計教育を行う。
- 2019年
シニア昇格。
引き続きファンド監査、SOC業務、上場企業の会計監査を担当。社会貢献プログラム「EY Ripples」の一環として中高生教育支援プロジェクトに参画。

メンバー紹介

2016年入社
第4事業部
シニア

A.Suzuki



仕事のフィールドが広がれば 将来の選択肢も増えていく

地域医療の改善に 貢献できたことを実感

私自身かつて医師を目指していたことに加え、友人にも医療関係者が多く、病院などの環境改善に貢献したいとの思いから、医療関係の仕事ができる監査法人に入社したいと思っていました。パブリックセクターで豊富な実績を誇るEY新日本ならばその希望もかなえられると思ったことが、入社のも機です。実際、1年目から九州エリアの病院や医療法人を担当。3人のチームのコアメンバーとして内部統制のヒアリングなどのために出張に次ぐ出張の日々を送りました。多忙な病院関係者は職場改善に目を向ける余裕

が無いことが多いです。往査の際に他院の事例を紹介し、残業時間削減などに向けた提言を行うことで、私たちは改善のきっかけを植え付けていきました。翌年再訪すると明らかに環境が変わっていることも多く、それは大きなやりがいとなりました。僻地や離島の病院は地域の人々の命を預かっています。院内の労働環境が改善されれば、地域へのよりよい医療の提供につながっていくでしょう。そんな社会貢献の喜びを実感しながら出張を続けた日々でした。

上場企業、IPOと担当の幅が広がる

転機となったのは3年目に上場企業の監査を担

当することになったことです。パブリックセクターの会計基準は独特で、一般企業とはスピード感なども違います。上場企業となると担当者も公認会計士の有資格者であることが珍しくなく、より専門的な知見が求められるようになります。病院や医療法人を担当しながら同時に上場企業も担当したことで、私の視野とスキルは一気に広がったことを実感しました。さらに5年目にはヘルスケア関連企業のIPO準備も担当。視野は一段と広がりました。このようにスタートはパブリックセクターではあったものの、気が付けば事業会社、IPO、と異なる経験を重ね、公認会計士としての仕事の幅が広がっていったのです。さまざまな領域に数多くのクライアントを持つEY新日本だからこそ、こうしたキャリアの広げ方が可能だったと思います。

次のチャレンジは世界へ

担当した上場企業がグローバルに事業を展開していたため、業務では英語のスキルが必須でした。けれど私は英語のコミュニケーションが苦手。必要に駆られて必死で勉強することになりました。その結果、海外でのビジネスに対する関心が高まり、せっかく学んだ英語も生かしたいとの思いで、海外駐在にもチャレンジすることにしました。そこでEY新日本の「海外チャレンジ



プログラム」に挑戦。選考をパスして、EYのシンガポール事務所への駐在が決まりました。期間は1年半の予定で、これが終わったら他にも2、3カ国で働いてみたいと考えています。英語はまったく苦手だった私がまさか自ら望んで海外で働くことになるうとは、想像もしていませんでした。これでパブリック、事業会社、IPOに加えてグローバルが私のキャリアにおける4つ目の軸として加わったことになります。いずれこの中から私のスペシャリティを発揮できる道へ進むことになるでしょう。選択の可能性が広がったことを、改めて嬉しく思います。入社前の面接で会った先輩たちは皆さん明るくフレンドリーで、強い意志を持ちながら自分の道を歩いていると感じました。私も先輩のようになりたいと憧れたものです。これからは私の姿も、後輩たちの参考になればと思っています。

CAREER

- 2016年入社。第2事業部で消費財企業を担当。半年後に本配属として第4事業部に異動する。
- 2017年ヘルスケアセクターにて医療法人、地方独立行政法人、独立行政法人を担当。1年のほとんどを出張先で過ごす。その後ライフサイエンス関連の事業会社も担当。
- 2019年シニア昇格。
- 2021年ヘルスケア関連IPO業務担当。海外チャレンジプログラムによりシンガポールに駐在。

A.Suzuki

2016年入社
第4事業部
シニア

2016年入社。独立行政法人、医療法人を担当して経験を積む。その後、上場企業、IPO準備企業も並行して担当。海外勤務にも興味があるため、海外チャレンジプログラムを利用してEYシンガポール事務所へ赴任。趣味はキックボクシング。休日になると近所のジムで数時間汗を流す。スパーリングで体はあざだらけ。しかし頭の中は真っ白で、最高のリフレッシュに。



第4事業部パブリックセクター

ライフサイエンステクノロジー(製薬・医療/精密機器など)、エネルギー(電力・ガス・石油など)、パブリック(地方自治体・大学・病院など)の3つのセクターにより構成され、多様な業種の監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。グローバルに展開する大手企業、スタートアップ企業、そして地域の重要なインフラを支える非営利組織など、規模もマーケットも多様なクライアントに対して、多様性と専門性の双方を追求し、サービスを提供しています。

メンバー紹介

2009年入社
第5事業部
シニアマネージャー
T. Matsumoto



チャレンジし続けることがプロフェッショナルの条件

挑戦が人を育てる

スタッフ時代を振り返ると、新人ながらすごい経験をさせてもらっていたんだなと改めて感じます。日々、目の前の業務をこなすのに精一杯ではあったものの、得意の英語を生かせる業務がしたいと口にしたら、海外監査チームとのコミュニケーションを含むグローバルな業務にも携わらせていただきました。もちろん上司が手厚くサポートしてくれてはいたものの、当時の私にとってはチャレンジングで刺激的な業務だったことは間違いありません。新しいことに挑戦し、周りのサポートもあったおかげで、すいぶんと成長できたと思います。同じことは4年目にシニアに昇格し、主査を担当したときにも経験しました。

グローバルに事業を展開する大手企業の監査を経験したいと希望したところ、そのチャンスを与えてもらったのです。この経験も私にとって大きな財産となりました。自ら手を挙げればチャレンジさせてもらえる組織風土に加え、数多くの大企業をクライアントとするEY新日本ならではの環境といえるでしょう。さらにEY新日本として出版する書籍の執筆メンバーに加われたこと、会計監査以外の非監査業務に携われたことなど、実に多様な経験を積むことができました。

海外駐在で身に付けた“武器”

もう一点、私の成長を後押ししてくれたのが、育成を兼ねた若手向け海外派遣プログラムを利用



して海外事務所働いたことでした。米国からの帰国子女だったこともあり、いつかは米国で働いてみたいと願っていた私にとってこの海外派遣プログラムは、その思いをかなえる絶好のチャンスでした。自ら志望して試験を受け、駐在の夢をかなえました。赴任したのはサンノゼ事務所。私はここでシリコンバレーのテクノロジー企業、日系企業の監査の統括マネージャーとして勤務しました。日本にいたときは、海外で働く上では自己主張が大事という勝手なイメージがありましたが、実際にその中で仕事をしてみて気付いたのが、米国人は言うべきことは言うものの、想像以上にさまざまな配慮をして仕事をしていること。その経験からグローバルコミュニケーションで大切なのは決して押しの強さなどではなく、相手をリスペクトし、誠実な姿勢で相手の言葉に耳を傾けることだと学びました。海外事務所働いたからこそ得られたこのような

経験は、グローバルなビジネスパーソンを目指す私にとって大切な財産となりました。サンノゼ事務所での駐在は約2年間。帰任後はグローバル企業の監査を担当していますが、より広い視野で物事を考えることができるようになりました。外国の方と接する際にも駐在の経験が大きく役立っています。

ますます刺激的な時代がやってくる

私が担当している自動車業界はもちろんのこと、日本の企業全体が大きな変革期に直面しています。我々にはクライアントのDXをサポートしていく役目も期待されており、経営サイドに近いところで変革のサポートができること、クライアントと共に我々も成長できることに喜びを感じています。その意味でもこれからの時代は公認会計士にとってますますエキサイティングなものとなるでしょう。今後入社される皆さんにも、非常に刺激的な経験が待ち構えているのではないのでしょうか。そのなかで成長していくためには、やはり自ら手を挙げ、挑戦していく姿勢を忘れないことです。そのような方々をサポートする体制と文化がEY新日本にはあります。私自身は今後もグローバル企業のサポートをしたいという軸は変わらず、より価値ある貢献のために、さらに自分を磨いていきたいと考えています。

CAREER

- 2009年
入社。
国際部(当時)に配属され、自動車メーカー、自動車部品会社、外資企業などの会計監査を経験。
- 2012年
シニア昇格。
グローバルに展開する自動車関連企業、スタートアップ企業の主査を担当して監査経験を積むと共に、非監査業務、執筆活動などにも携わる。
- 2016年
マネージャー昇格。
海外派遣プログラムを利用して米国のサンノゼ事務所に駐在。シリコンバレーのテクノロジー企業、日系企業の監査の統括マネージャーとして従事。
- 2018年
帰任。
主に自動車関連企業の監査を担当。
- 2019年
シニアマネージャー昇格。



第5事業部

主に自動車業界と不動産関連のクライアントを中心に監査を担当しているのが第5事業部です。部内ではセクター(業種)別にチームが編成され、業界特有の専門的な知見、最新の情報に基づいたサービスを提供しています。同時に業界ごとのナレッジ活動を通じて知見と経験を共有することで、業界に特有の会計・内部統制上の課題に対応しています。

メンバー紹介

2007年入社
 企業成長サポートセンター、
 第3事業部（兼務）
 シニアマネージャー
 Y.Yoshida



IPO業務を通じて、 次代の世界企業を育てたい

トップクラスの実績を誇るEY新日本

EY新日本は、日本国内でのIPO業務でトップクラスの案件実績を誇ります。その高い実績への評価が、さらに大きなポテンシャルを持つ成長企業からの依頼を呼び込むという好循環につながっています。必然的にIPOに関するナレッジは豊富に蓄積され、その知識・情報を活用することでサービスの質は磨かれていきます。2020年にEY新日本では、IPO業務に実績や知見のあるメンバーを評価する「IPO認定者制度」を創設しました。EY新日本が法人としてこの領域にいかにも本格的に取り組んでいるかを示すものです。さらには上場支援にとどまらず、資金

調達や事業計画策定なども含めてワンストップでサービスを提供する専門チーム「EY Startup Innovation」も設置。包括的なベンチャー支援に力を入れています。こうした環境は私たちメンバーにとって非常に魅力的であり、トップレベルのIPO業務に携わっているという自負が得られます。

出向経験によって 深い専門性を身に付ける

私がIPO業務に携わるようになったのは、入社5年目に上場準備企業の監査に主査として関与したことがきっかけでした。そのうちの1社が上場

を達成したことで若い起業家たちと一緒に疾走する喜びと達成感を味わったのです。以来、IPO業務に傾注するようになりました。一方でクライアントからの期待と自分の実力にギャップがあることを痛感。より専門的な知識・経験が必要だと感じ、IPOのメインプレーヤーの立場から業務を経験したいと考え、自ら望んで2年間にわたって証券会社に出向しました。証券会社では公開引受部で上場審査の最前線を経験。上場というゴールに向けてどんな道を歩んでいけばいいのかを、リアルに学びました。自分を磨くために他社で経験を積みたいという希望がかなえられるのも、EY新日本の素晴らしいところです。

監査業務の経験が生み出す高い価値

証券会社へのお出向で感じたのは、私たちが監査業務を通じて当たり前のように感じていた知見が、実はとても価値あるものだったということでした。ちょっとした助言が想像以上に喜ばれたことが数知れずあったのです。これはIPO業務そのものにおいても同様で、上場準備中のベンチャー企業に対する私たちの一言は私たちが思う以上に価値があります。例えば取締役会の議事録の書式ひとつとっても、上場会社なら当たり前のことがベンチャー企業にとっては悩みの種になることもあります。こうした上場企業と



しての“あるべき姿”を達成する上で、私たちが提供するサポートは非常に大きいといえます。その価値を私たちは入社以来携わってきた監査業務を通じて身に付けてきました。日本を代表する企業の監査業務に携われることは、IPO業務におけるアドバンテージにもつながっているのです。今後私自身はベンチャー企業に対して、チームとしてはもちろんのこと、私個人としてもワンストップでサービスが提供できるようになりたいと考えています。そして次代の世界企業を日本から送り出すことを夢見て、さらに自分を磨いていきます。

CAREER

- 2007年入社。監査第2部（当時）配属。製造業や小売業、IT系の上場企業を中心に法定監査業務に従事する。
- 2010年シニア昇格。
- 2015年マネージャー昇格。第3事業部に異動。
- 2018年モビリティを利用し、証券会社の公開引受部に出向。主にベンチャー企業へのIPO支援や市場変更のコンサルティングを経験する。
- 2019年シニアマネージャー昇格。
- 2020年証券会社から帰任し、企業成長サポートセンターに所属。ショートレビューやIPO監査業務、IPOアドバイザリーのほか、社内外の研修・セミナーの企画・運営や講師も担当する。



企業成長サポートセンター

EY新日本に蓄積されたIPO支援のナレッジを活用し、IPO関連イベントやセミナーなどを開催して、多くの成長企業に情報提供を行います。上場希望の企業に対してはナレッジやノウハウ、人脈などの総合力を駆使してIPO支援を行うと共に、上場後の監査も担当します。

メンバー紹介

2007年入社
第1事業部
パートナー
Y.Kai



Y.Kai

2007年入社
第1事業部
パートナー

2007年に大手監査法人から転職。化学業界リーディングカンパニーをはじめとするさまざまな企業の監査に従事するほか、IPO業務や採用業務にも携わり、多様な経験を重ねてきた。化学セクターのナレッジリーダーも務める。趣味はキャンプ。家族と共に大自然の中で過ごす時間を大切にしている。

チャレンジの数だけ未来の選択肢は広がる

業界のスペシャリストとして

EY新日本はインダストリーごとのセクター活動が活発に行われているため、その業界に精通した知見・情報を蓄積しやすいことが強みです。しかも業界のリーディングカンパニーを多数クライアントとしていることから、業界全体を俯瞰したアドバイスも可能です。EY新日本で経験を積むことで業界のスペシャリストとしての付加価値を身に付けられるのは、こうした環境のためといえるでしょう。私自身は入社以来一貫して化学業界のクライアントを担当し、化学業界のナレッジを蓄積してきました。公認会計士は常にクライアントに寄り添うように仕事をしているため、日本経済の成長を牽引するリーディングカンパ

ニーのビジネスパーソンと膝を突き合わせて向き合える点は大きな醍醐味です。現在私は化学セクターのナレッジリーダーとして、各監査チームと業界の事情や課題、論点などについての情報共有を進める立場にあります。自ら蓄積してきた知見をEY新日本の価値向上に結び付けられることも、やりがいに感じています。

キャリアに対して欲張りでありたい

私がEY新日本に入社して最も驚いたのは、手を挙げた人には大胆にチャンスを与えるカルチャーでした。私がグローバル企業の監査もやりたいしIPOも経験したいと欲張りな希望をしたときも、その両方にチャレンジさせてもらい

ました。また、人材育成プログラムNextGenに参加し、執行部への企画提案や、海外のEYメンバーとのコミュニケーションの機会を得ることができ、より広い視野で監査法人のあるべき姿を考え、グローバルな視点でクライアントと向き合える力、感覚を身に付けることができたと思います。さらに採用活動に携わったことも私にとってはチャレンジとなりました。ちょうどEY新日本が大きく変わろうとしていた時期に、この先我々がどこを目指そうとしているのかを考えながら受験生の皆さんに発信したことで、EY新日本の魅力を改めて体感することができました。EY新日本のことが一段と好きになったのもこのときです。キャリアや年齢に関係なく、常に成長できる環境がEY新日本にはあります。

変革を先取りできるアドバンテージ

デジタルイノベーションの波は、私たちの社会・経済・産業に大きな変革を求めています。多くのクライアントがDXに舵を切る中、監査のあり方や公認会計士に求められるものも間違いなく変わってくるでしょう。その大変革の中でどんな価値を発揮できるかが、これから私たちに問われてくると思います。EY新日本は業界のリーディングカンパニーを多数クライアントとして持ち、さらにグローバルの舞台で多くの仲間が活躍しています。むしろ変革の波を先取りできるアドバンテージがあるのではないのでしょうか。こうし



た環境のなか、これから入社される皆さんはさまざまなチャレンジの機会に自ら手を挙げることで、可能性の幅をいくらでも広げられるでしょう。私のように欲張りに、どんどん手を広げていってかまいません。その中で自分自身のスペシャリティを見極め、進むべき道を見つけ出し、自らを磨いていってほしいと思います。

CAREER

2007年入社。監査第6部(当時)に配属されて化学繊維大手のグローバル企業担当となり、J-SOX導入支援業務に携わる。その他にも不動産、人材紹介などさまざまな企業の監査に従事するほか、IPO業務にも関わる。マネージャーに昇格。

2011年シニアマネージャーに昇格。グローバル企業の統括主査となり、多くの海外EYメンバーとのコミュニケーションや海外出張などを経験。また人材育成プログラムNextGenにも参加し海外研修や経営執行部への企画提案など、法人内でさまざまなチャレンジを経験。

2013年採用活動にリクルーターとして参加。

2017年パートナーに昇格。採用担当となり、受験生とのリレーション構築や法人説明会のイベント等で活動。

2020年化学セクターナレッジリーダーとなり、監査チームに対して業界で共通する会計・監査上の検討課題に関する情報共有の機会を提供。

MESSAGE
皆さんのチャレンジを
お待ちしております



第1事業部

化学、テクノロジー、商社業界を中心に、グローバルクライアントからIPO準備会社まで、幅広くカバーしているのが第1事業部です。デジタルイノベーションをはじめとする環境変化に対応する企業も多く、業界知見や多様なスキルを持った人材によって監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。部内はセクター(業種)別にチームが編成されています。

メンバー紹介

2007年入社
Forensics事業部
マネージャー
A.Murata



不正調査を通じて社会の秩序を守る

企業を正しい道へ導く

会計不正や品質不正などの報道、コンプライアンスに係る問題など、企業の不祥事に関連した報道を耳にする機会が増えたのではないのでしょうか。不祥事が発生した際、かつての企業は適切な対応ができずに問題を重症化させてしまうケースもありました。近年は不正に対する社会の関心も高まり、企業を取り巻く各種規制が厳格化され、SNSの普及により情報が拡散するようなリスクも高まる中、企業においては不正発覚後の対応や不正防止策の構築に力を注ぐべきとの意識が高まってきました。このように不祥事に対して誠実に向き合おうとする企業、経営者をサポートするのがForensics事業部です。EY新日本の場合、Forensics事業部は

アシュアランスのサービスラインに含まれており、監査業務との親和性も高い点が特徴です。よって、さまざまな規模、業種の企業の監査業務を通じて企業本来のあるべき姿を熟知しており、そこからくる深い洞察と知見に基づいて、企業が正しい道へと向かうサポートができるのです。高い専門性を有する公認会計士が多数所属し、テクノロジー、法律や規制、コンプライアンスなど、各方面で高度な専門性を持つメンバーと日常的に連携できる環境があるからこそ、あらゆる業界の問題解決に対応できることも強みとなっています。

出向を通じて深い知見を得る

入社以来公認会計士として多数の日系・外資系企



業の監査業務に携わる中で感じたことは、不祥事が企業活動に及ぼすインパクトの大きさでした。そして小規模な不正であってもその対応に苦慮したり、日常ではない危機管理的対応やその後の社会からの信頼回復に向けた対策に苦勞する経営者や従業員の姿を目にし、彼らを救う力になりたいと思うようになりました。そこで、不正調査を含めこのような領域に関する専門性を高めるため、自ら志望して金融庁証券取引等監視委員会に出向し、2年間にわたって金融商品取引法違反の調査業務に従事しました。その結果、隠された不正を見つけ出すための視点やアプローチ方法を学ぶと同時に、個人や企業が不正に手を染める背景や発覚後の対処とそれぞれの経緯などを知り、改めて不正を未然に防ぐための体制構築の重要性や、不幸にも不正が起きてしまった場合の適時適切な対処の重要性をより強く認識しました。法律や税務など他の分野のプロフェッショナルとコラボレーションする中、公認会計士としての専門性を強く発揮することが求められたことも成長につながりました。出向を通じてこうした機

会を与えてくれたEY新日本に感謝しています。

誠実に取り組む経営者のために

Forensics事業部は不正調査の支援だけでなく、企業の不正対策の支援、コンプライアンスリスク対応の支援、テクノロジー分野からデータ分析を通じたリスク評価支援やサイバー攻撃へのリスク対策支援などを行っています。私自身は公認会計士としての知識や出向先での経験を生かし、各種不正調査やテクノロジーチームと連携しデータ分析を通じたリスク評価などを支援しています。振り返ってみればそもそも私が公認会計士の道を志したのは、事業の成長を目指し活動する中、多くの規制や社会からの要請に対しても誠実に向き合い真摯に取り組む経営者をサポートすることで、専門分野から社会秩序の維持にもつながるような貢献をしたいと思ったことが出発点でした。Forensics事業部での業務は間違いなくその延長線上にあるものです。企業にとってはリスク認識やその改善に関する話題になるため、経営者に対し時には耳の痛いことも言わなくてはなりません、その結果、企業が課題を乗り越え正しい道に軌道修正を図れたときは大きな喜びが得られます。医師や弁護士といった高度プロフェッショナル人材は、自分ならではの専門領域を強みとしている方が多いと思います。公認会計士も同様にあるべきでしょう。Forensics領域で自分を磨くことは、そうした価値向上にもつながると感じています。



Forensics事業部

不正調査業務などを通じ、クライアントが一度立ち止まって内部統制や組織を根本から見直し、新たなステージに向かうことを支援しています。それによってより良い社会の構築に貢献しています。不正調査にはテクノロジーの活用が必須であることからForensics事業部の約半数はITの専門家で構成されています。

CAREER

- 2007年入社。監査事業部（当時）にて製造業やIT・ソフトウェア業を中心とした監査業務に従事。
- 2010年シニア昇格。主に日系グローバル企業の監査業務に従事。IFRS導入支援のアドバイザー業務にも携わる。
- 2015年マネージャー昇格。日系・外資系のIFRS適用企業を中心とした監査業務に従事。
- 2019年金融庁出向。証券取引等監視委員会にて金融商品取引法違反に関する調査業務に従事。
- 2021年帰任し、Forensics事業部にて各種不正調査業務を中心に従事。学生に向けた不正調査業務のインターンシップの開催などにも携わる。

メンバー紹介

2003年入社
アシュアランスイノベーション本部
パートナー

N.Ichihara



CAREER

- 2003年
入社。
国際部(当時)に配属。グローバル金融機関の監査に従事し、金融工学を学ぶ。
- 2007年
シニア昇格。
- 2009年
マネージャー昇格。
EYのニューヨーク事務所デリバティブ・リユエーション・センターに赴任。米国の金融機関向けリスク管理アドバイザー業務に従事。
- 2011年
帰国し、金融事業部に所属。金融機関向けに、デリバティブ評価モデルやリスク管理のアドバイザー業務、監査に従事。
- 2014年
シニアマネージャー昇格。
大学院で数量ファイナンスや会計学、計量経済学、機械学習などを学ぶ。
- 2016年
修士課程修了。品質管理本部不正リスク対策部に異動。不正会計予測に機械学習のアルゴリズムを用いたEY新日本の独自モデルを構築する。
- 2018年
パートナー昇格。
- 2020年
アシュアランスイノベーション本部の立ち上げに携わる。

当たり前です。しかし現実には不正が絶えることはありません。不正そのものも進化しており、膨大なデータの中に隠された不正の糸口を人間の力だけで見つけ出すようなことは困難になってきました。デジタル時代においても私たち監査法人が「市場の番人」としての使命を果たす上でAIをはじめとするテクノロジーの活用はより一層重要なものになっていくと考えています。EYでは「Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)」というパーパス(存在意義)を掲げており、「アシュアランス4.0」はその実現に寄与するものです。少しでも不正の検知に役立つような監査ツールの開発を通じた貢献は、公認会計士である私にとって大きなやりがいとなっています。またEY新日本のさまざまな監査チームのニーズを拾い上げ、テクノロジーで解決していくプロセスそのものも醍醐味です。

よりエキサイティングな領域へ

グローバル化が進む時代に英語力が必須と言われたように、これからのデジタル監査の時代においてテクノロジーのスキルや統計・数学のリ



テラシーは必須となるかもしれません。入手できる情報がますますリッチになっていく中、情報を十分に活用するためにはこういったスキルやリテラシーによりデータを見る解像度を劇的に上げる必要があるからです。膨大なデータを自在に分析、活用し、より深く監査を行うような未来では、公認会計士がかつてないほどエキサイティングな職業になっているでしょう。皆さんにはこうした未知の世界に足を踏み入れることを恐れず、むしろ未踏の領域を切り開いていくことを楽しんでいただきたいと思います。これから公認会計士としてスタートを切る皆さんにとって、この上なく大きな成長を手に行ける環境がここにあります。

イノベーションの先陣を切る

世界に先駆けた対応と実績

テクノロジーの急激な進化が、社会やビジネスのあり方を一変させています。会計監査も同様です。EY新日本ではデジタル時代の監査のモデルをアシュアランス(監査)4.0として位置付け、長年受け継がれてきた伝統的な監査の世界から、次代の監査を目指すイノベーションに取り組んでいます。この取り組みを担うのが理事長直轄の組織であるアシュアランスイノベーション本部です。その中で私は、AIを活用した監査ツールのプロダクト開発を行うAIラボで副部長を務めています。デジタル時代の新しい監査のあり方については大手ファームを中心に多くの監査法人が意欲的に取り組んでいます。それらと比較したEY新日本

の強みは、群を抜く先進性にあるといえるでしょう。2016年には機械学習のアルゴリズムを用いた独自の不正会計予測モデルを構築し運用を開始しました。これは世界レベルでもトップクラスの早さでの取り組みでした。2017年には仕訳の異常検知の運用を開始し、今では多くの監査現場で利用が進んでいます。また仕訳の異常検知のアルゴリズムは特許も取得しました。こうした先駆的な取り組みは研究やパイロットの段階ではなく大規模な利用に耐えられるシステムとして運用されているのもEY新日本ならではの強みです。

根底にあるのは普遍的使命感

投資家にとっては会計不正のない正しい世界が



アシュアランスイノベーション本部

アシュアランス4.0を見据えて2020年に発足。企画部門のイノベーション戦略部、監査部門を組織的に支援するCoE推進部、AIを活用した監査ツールやプロダクト開発を行うAIラボ、監査ツールの導入・展開を行うアシュアランステクノロジー部で構成されています。

メンバー紹介

2018年入社
第1事業部、
アシュアランスイノベーション本部(兼務)
シニア
T.Koizumi



MESSAGE
お会いできる
のを楽しみに
しています

メンバー紹介

2017年入社
CCaSS事業部
シニア
Y.Furubayashi



MESSAGE
EYで自分だけの
キャリアを築こう!!

CAREER

- 2018年
入社。
主に化学メーカーの監査に従事。
- 2019年
前職のITベンチャーでの経験を生かしAIラボと兼務。仕訳異常検知ツールの開発・オペレーションなどを担当。
- 2021年
引き続き化学メーカーの監査に従事しつつ、AIラボを兼務。AUP(合意された手続)業務をはじめとする非監査業務にも従事。シニアに昇格。

T.Koizumi

2018年入社
第1事業部、
アシュアランスイノベーション本部(兼務)
シニア

ITベンチャーでエンジニアとして約2年勤務した後、EY新日本入社。1年目から現在に至るまで大手化学メーカーの監査に従事する一方で、2年目よりAIラボとの兼務を続ける。基本的にはインドア派で、休日はネットで映画を鑑賞したり、本を読んだりして過ごしている。

テクノロジーを新たな強みに

公認会計士としての基礎を固める

ITエンジニア出身の私がセカンドキャリアの場としてEY新日本を選んだのは、大手会計ファームの中でデジタル化に最も力を入れていると感じたからです。加えて会計士としての経験がゼロだったため、着実に成長できる環境があることや、意思表示を行うとすぐにチャレンジできる風土・雰囲気があることも決め手となりました。入社以来、大手化学メーカーの監査に従事。振り返って実感するのは、大手企業を担当することで企業としての「あるべき姿」というものを学べたことです。内部統制1つとっても大手企業ほどしっかり構築されており、それらに触れることで公認会計士としての確かな軸を確立できたと思います。

高い価値を発揮し続けるために

2年目からAIラボと兼務を続けています。主にAIで不正を検知するツール「EY Helix GLAD」によるデータ解析を担当し、現在は建設工事における異常検知ツールの開発やテストに携わっています。普段監査業務で担当していない業種の実務に即した知見、ユーザーからのリアルなフィードバックが得

AIラボ

AI監査ツールをはじめ次代の監査・保障サービス「アシュアランス(監査) 4.0」の実現を目指して発足したのがアシュアランスイノベーション本部です。その中でAIラボは、リアルタイム監査の仕組みづくりを視野にAIによる不正検査ツールなどの開発を担っています。「EY Helix GLAD」に搭載された会計仕訳の異常検知技術は特許を取得しました。



られ、監査や開発両方の観点からも非常に得難い経験ができています。私がITエンジニアから公認会計士へとキャリアチェンジした背景には、公的な資格を取得することで安定的な道を拓いていきたいという思いがありました。しかし、入社後、急激に監査のデジタル化が進み、もはやテクノロジーを使いこなせない公認会計士は淘汰されるのではないかとさえ考えるようになりました。AIラボでの業務を兼務することで私は自分ならではの新たな強みを磨いていることを実感します。AI時代においても高い価値を発揮し続けるために、大手企業の監査を通じて公認会計士としての「あるべき姿」を固め、その上でテクノロジーの知見を高めていけることは、EY新日本ならではの魅力です。

CAREER

- 2017年
入社。
第3事業部にて、製造業の中小企業の監査チームに配属される。1年目よりさまざまな経験をさせてもらった。
- 2019年
英語を使いたいと希望し、大手半導体メーカーの監査チームに異動。その後、外食チェーンやIT企業の監査チームへ。会社法監査の主旨も経験する。
- 2020年
シニア昇格。
大手工作機械メーカーの監査チームに異動。かねてアドバイザリー業務に興味があり、モビリティ制度を利用して異動を申し出る。
- 2021年
CCaSS事業部に異動。TCFDを含む非財務情報の開示支援や、人権デューデリジェンスのアドバイザリー業務に従事する。

Y.Furubayashi

2017年入社
CCaSS事業部
シニア

難関資格に挑戦して自分の可能性を広げたいとの思いで公認会計士を志す。誠実な人と一緒に仕事がしたいと願い、EY新日本に入社。5年間にわたって公認会計士としての基礎を磨き、その後、アドバイザリー業務にも携わりたくともビリティ制度を利用してCCaSS事業部に異動する。休日はジムに行ったり英語の勉強をしたり。椎間板ヘルニアと戦いながらゴルフにもいそむ。

アドバイザリーへのキャリアチェンジ

非財務分野でクライアントを支援

私が所属するCCaSS(気候変動・サステナビリティ・サービス)は、主に企業の気候変動をめぐるリスクや機会への対応、さらにはサステナビリティと経営戦略の統合をサポートしています。その中で私は、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)開示支援業務や非財務情報の保証業務、人権デューデリジェンスのアドバイザリー業務などに従事しています。異動してからは、会計や監査の知識をほぼ使用しなくなったものの、監査時代に培ったスキルは大いに役立っていると実感します。監査調書の作成を通じて得た文章を作成する力や、監査での質問や資料依頼の講評などの経験で得たクライアントとのコミュニケーションスキル、分からない事象にあたったときに自分で調べ、さらに周りを巻き込んで解決する力などは、今の業務でも欠かせないスキルになっています。

自らの意志で道を拓く

入社以来会計監査に携わり、公認会計士としての基礎を固める一方で、アドバイザリー業務にも興味を抱くようになりました。転職も1つの手段ではありましたが、EYの自由で開かれた組織風土が自分にとても



合っていると感じていたため社内ですぐと模索していたところ、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関するアドバイザリーサービスを展開するCCaSSの存在を知りました。興味が湧いたもののこれまでとまったく異なる分野であったため、カウンセラーやグループ長に相談したところ、面白いキャリアになると思うし、挑戦すればよいと背中を押していただきました。そのような心強い後押しもあり、モビリティ制度を利用して、CCaSSに異動することができました。こうしたキャリアチェンジができるのはEYの大きな魅力といえるでしょう。EYは世界有数のアカウンティングファームとして知られているだけでなく、ESGコンサルティング分野においても世界のリーダーであると評価されています。私もその一員であることを自覚し、将来的には財務、非財務どちらにも通じたジェネラリストとしての道を歩んでいきたいと考えています。

CCaSS事業部

CCaSS事業部では、ESG/サステナビリティの全社戦略、特定領域別の戦略、保証業務を中心としており、企業の課題解決を推進して長期的価値創造を実現します。

メンバー紹介

2014年入社
EYストラテジー・アンド・
コンサルティング
コンサルタント
M.Morioka



MESSAGE

みんな ☆
がんばれ!!

メンバー紹介

2007年入社
EY上海 (出向)
シニアマネージャー
R.Nishizawa



MESSAGE

同じ専門家として
EYで会うことも
楽しみにしています!

CAREER

- 2014年
入社。
名古屋事務所に配属。精密工業、建設業、学校法人などの監査に従事。アニュアルレポート(英文財務諸表)の作成やリクルート活動も経験する。
- 2017年
シニア昇格。
自動車部品メーカー、小売業、学校法人などの現場主査としてチームマネジメントを担当。IPO準備にも携わる。
- 2019年
フィリピン語学研修(1カ月)に参加。
- 2021年
モビリティ制度を利用し、かねて希望していたSaTのTRS部門に出向。主にアミューズメント業界の再生案件に携わる。

M.Morioka

2014年入社
EYストラテジー・アンド・コンサルティング
コンサルタント

人材紹介会社で転職アドバイザーとして働いた後、公認会計士を目指してキャリアチェンジ。EY新日本に転職する。名古屋事務所で監査業務を中心に経験を積んだ後、7年目にSaTに出向。学生時代からバックパッカーとして世界を旅してきた。今の目標はウクライナへの再訪。

新たな成長を目指し、自らの意思で出向へ

メンバーファームへの門戸が開かれている

私がモビリティ制度を利用したEY Japanのメンバーファームへの異動を考えるようになったのは、新しい環境で自分の可能性を広げたいと思ったからでした。名古屋事務所での7年間、幅広い業種のクライアントに対して監査業務を中心に英文財務諸表の作成、IPO準備などに携わるうちに、「数字を見る」だけでなく、クライアントと一緒に「数字をつくる」業務にも取り組んでみたくなったのです。そこで希望したのが企業価値向上などの戦略的アドバイザー業務を行うSaTでした。転職することなく、異なるフィールドでの挑戦に一步を踏み出せるのは、メンバーのキャリア形成に意欲的なEY新日本ならではの魅力です。

多様な視点、新しい知見を身に付ける

企業・事業再生を手がけるTRS部門で、私はアミューズメント企業の案件を担当。資金繰り状況のモニタリング、グループ会社の統廃合、清算価値の算定、債権者向けの説明資料の作成などを行っ



ています。クライアントと一緒に再建計画書を作成し、金融機関や債権者のもとへ説明に出向くのですから、まさに運命共同体の一員として取り組んでいる実感が得られます。債権者の数字に対するシビアな目線を知ることもできました。一緒に働く仲間は銀行出身者、証券会社出身者など、バックグラウンドは多彩。公認会計士はむしろ少数派です。再生案件では、監査法人のときは関わることのなかった弁護士の方々と仕事をすることも多いのですが、同じプロジェクトで働いている弁護士の先生方の案件の進め方、物事の考え方など、日々勉強になることばかりです。出向期間は2年間です。ここでの経験を新たな糧として、私ならではの価値が提供できる公認会計士を目指していきたいと思っています。

EYストラテジー・アンド・コンサルティング

EYストラテジー・アンド・コンサルティングは2つのサービスラインが統合した法人です。EYの戦略的コンサルティングサービスの集約により、大手クライアントに向けて成長のための多様な支援業務を行っています。

CAREER

- 2007年
入社。
公開業務部(当時)に所属し、主に上場会社・IPO準備会社の監査業務に従事する。
- 2009年
シニア昇格。
クライアントの窓口として監査現場のとりまとめのほか、IPO準備会社のショートレビューも担当し、上場に向けたアドバイスも行う。
- 2014年
マネージャー昇格。各監査エンゲージメントのプロジェクト管理を実施。IPO準備会社の新規監査契約に向けた提案も行う。
- 2017年
人材開発本部採用課と兼務し、定期採用業務に従事。
- 2020年
EY上海に出向。グローバル日系企業の現地法人との会計・監査に関するコミュニケーション活動などに従事する。

R.Nishizawa

2007年入社
EY上海(出向)
シニアマネージャー

事業会社で経理として勤務した後、新日本監査法人(現EY新日本)に入社。上場会社、IPO準備会社の監査業務に従事した後、各監査エンゲージメントのプロジェクト管理や定期採用業務などにも携わる。13年目にEY上海へ、3年間の予定で駐在員として赴任。休日にはゴルフや旅行を楽しむほか、語学学校に通って中国語の習得にも努めている。

新しいバリューを海外で

コミュニケーションギャップを埋める

上海で暮らして感じることは、デジタル技術の進化を通じた成長の勢いです。そのスピード感は凄まじく、非常に刺激的です。業務においては文化や言語が日本とは異なるため、時にはコミュニケーションギャップも発生します。駐在員である私の役割の1つが、そうしたギャップを埋めることです。グローバル日系企業の日本本社と中国の現地法人、EY新日本とEY上海という4つの組織の間に立つて問題点や課題点を整理。さらに、税務や内部統制、M&Aなどの相談事に対して各専門家と連携し、課題解決に協力して取り組んでいきます。EY新日本で得た会計や監査の知識や経験をベースに、コーディネーターとしてクライアントに貢献しています。

クライアントへのさらなる貢献を

入社以来私は、特にIPO支援についての専門性を磨いてきました。自分自身のさらなる成長を考



たとき、グローバルビジネスに対する感覚を身に付けることが不可欠であると感じて海外駐在を決定し、社内公募を利用してEY上海に駐在することになりました。上海で過ごす3年間は、私にとって将来活躍するための貴重な経験になると考えています。自ら望めばこうしたチャンスが得られることに、EY新日本の人材育成に対する強い思いを感じます。帰任後はグローバルにビジネスを展開している企業の監査に携わり、EY新日本とEY海外法人がスムーズに連携できるように駐在経験を役立てたいと考えています。また、グローバルなコミュニケーションの経験を生かして、これからもクライアントにさらなる価値提供を行っていきます。

EY上海

EYは150カ国以上で監査・保証業務、税務、「ストラテジー・アンド・トランザクションおよびコンサルティング」のサービスを提供しており、全世界を「Americas(北・中・南米)」「Asia-Pacific(アジア・パシフィック)」「EMEA(欧州、中東、インド、アフリカ)」の3つのエリアに区分して運営しています。中国・台湾には約30の拠点があり、EY上海はそのうちの1つの組織です。

道は自ら拓ける。そこに意志があれば。

北海道から沖縄まで日本全国に拠点を置くEY新日本は、地域のニーズに応える品質の高いサービスを提供しています。エリアの違いにとらわれないキャリアの可能性、女性の活躍を支える環境などについて、大阪事務所と名古屋事務所のマネージャーをご紹介します。

主体的にキャリアをデザインできる

Amano 私は手に職をという思いで選んだのが、公認会計士の道でした。

Katayama 確かに、社会の一員として長く働きたいと考えたとき、公認会計士は男女の別なく活躍できる仕事なのは間違いありません。自分の専門性を発揮することで誰かの役に立てたとき、そしてその結果感謝されたときは、大きな喜びを感じます。

Amano クライアントとコミュニケーションを取って事業への理解を深め、課題を一緒に解決していくことのやりがいは大きいですね。

Katayama 天野さんはグローバル企業を担当されるなど、国際的な業務が多いそうですね。

Amano 海外に関連する仕事がしたいと希望して入社し、子どもたちを生んだ後、10年目には海外派遣プログラムを利用して米国のサンノゼ事務所にて2年間出向しました。実はこのとき夫は仕事を休職し、家族みんなで米国で暮らしていました。

Katayama 夫の海外駐在に妻がついていくパターンはよくありますが、逆は珍しいですね。

Amano 夫も当時はEY新日本に勤務しており、私が産休・育休で2年間休職したから今度は自分の番ということで休職し、子どもと共に米国へついてきてくれたんです。EY新日本大阪事務所にとって前例のないことであったものの、周囲の理解、協力もあって快く送り出してもらえました。おかげで夫も“主夫”生活をエンジョイできたようです。

Katayama それぞれの家庭の事情にあわせ、柔軟に制度を運用してくれる点はEY新日本の素晴らしいところですね。組織としての懐の深さを感じます。名古屋事務所では子育て中のメンバーが「フレキシブルワークプログラム」(※1)を積極的に利用しており、在宅勤務制度もコロナ禍以前から利用されていました。仕事と家庭を両立させるためのサポート体制はとても充実していると感じます。



Amano 在宅勤務制度のおかげで時間の有効活用が進みました。仕事の効率が上がっただけでなく、昼休みにヨガをしたり通勤時間帯にジョギングしたりと、プライベートの時間を楽しんでいます。

Katayama 「週に何日出社しなくてはならな



シニアマネージャー

志さえあればキャリアの可能性は無限。

選択肢は自分で広げられます。

い」というルールがなく、自分で決められるのがいいですね。働き方を主体的にデザインできます。自分が必要だと感じたらリモートミーティングで済ませず、直接クライアントに足を運ぶことも珍しくありません。

※1 フレキシブルワークプログラム=時間外勤務・休日出勤の免除や、短時間勤務、所定勤務日数を低減できる制度

自分が輝くうえで拠点の違いはない

Amano 大阪事務所は東京事務所の10分の1ほどの規模で、アットホームな雰囲気です。

Katayama さらに小規模なのが名古屋事務所です。みんなフランクでパートナーとの距離が近いのは、地区事務所ならではの魅力ですね。たまたま隣の席にパートナーが座ったから「こんな仕

Osaka × Nagoya



マネージャー
自分の働き方は自分で決める。
主体性こそが成長を促してくれます。

事をしてみたい」と直接相談するということも珍しくありません。

Amano 業界や業務ごとのくくりがなかったり、垣根が低かったりするのも地区事務所ならではの、幅広い仕事に挑戦できます。

Katayama 名古屋事務所では最近IPO関連業務や海外リファーマル業務が増えています。監査業務や非監査業務、セミナーの講師など、希望すればどんどん仕事の幅を広げられます。

Amano そうした意味でも、地区事務所だから仕事に限界があるのではといった心配は杞

憂ですね。例えばEY新日本では社を挙げて

Digital Auditへの取り組みを行っていて、私は西日本事業部のDigital Audit推進委員として最先端のデジタルツールの周知活動などに取り組んでいます。地区事務所に所属していてもEY新日本全体の活動においてコアな仕事ができおり、東京と地方との差はほとんどありません。

Katayama モビリティ制度が充実しているため、自ら望めば拠点間の異動もかなややすいですね。

Amano 結婚を機に実家のある大阪に帰ってきたというメンバーが大阪事務所にいますし、逆に大阪事務所から東京や福岡へ異動していくメンバーもいます。カウンセラーによるカウンセリングを通じてキャリアを見つめ直す機会が用意されているのも、主体的に異動をする上での支えになっていると感じます。

Amano そんなふうには先輩方が支えてくれるところがEY新日本らしさですね。そこに男女の垣根はありません。

Katayama 先ほど天野さんがDigital Auditに触れられたように、本格的なDX時代において、私たちも自分自身をさらにアップデートさせていかなくてはなりません。デジタルツールは単純作業から私たちを解放し、経営課題の解決など本質的な業務に集中できる環境を実現してくれると思います。

Amano 「Japan GradLab」(※2)に代表されるように若いメンバーが中心になってDigital Auditに取り組んでいます。EY新日本の先進性は、これから入社される方にとっても魅力的なことでしょう。

Katayama 名古屋事務所では、女性として私が一番上のキャリアにあります。後輩の皆さんに多様なロールモデルを通じてキャリアの幅を見てもらうことが、これからの私のビジョンです。チャンスがあればぜひパートナーへの道を目指したいですね。

Amano 私はこれまで海外のビジネスについての知見を磨いてきたので、今後もさらにグローバル企業への貢献を続けていきます。そして片山さんと同じく、パートナーを目指したいと考えています。

Katayama 拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を拓いていきましょう。

※2 次世代を担う人材を対象とする人材育成プログラム



先輩から後輩へ、道を拓きたい

Amano 私の場合はサンノゼ事務所への出向が一つの転機となりましたが、片山さんにとってのターニングポイントは何でしたか。

Katayama シニアからマネージャーに昇格したときでしたね。私にマネージャーが務まるか、一時は昇格をためらっていました。そのときパートナーが「そういう不安と向き合える人にこそ、チャレンジしてほしい」と言ってくれたんです。その言葉に背中を押され、思い切って一歩を踏み出すことができました。昇格してみると仕事に対するスタンスがまったく変わり、あらゆることに対して能動的に取り組むようになりました。視野も広がったと思います。

Amano そんなふうには先輩方が支えてくれるところがEY新日本らしさですね。そこに男女の垣根はありません。

Katayama 先ほど天野さんがDigital Auditに触れられたように、本格的なDX時代において、私たちも自分自身をさらにアップデートさせていかなくてはなりません。デジタルツールは単純作業から私たちを解放し、経営課題の解決など本質的な業務に集中できる環境を実現してくれると思います。

Amano 「Japan GradLab」(※2)に代表されるように若いメンバーが中心になってDigital Auditに取り組んでいます。EY新日本の先進性は、これから入社される方にとっても魅力的なことでしょう。

Katayama モビリティ制度が充実しているため、自ら望めば拠点間の異動もかなややすいですね。

Amano 結婚を機に実家のある大阪に帰ってきたというメンバーが大阪事務所にいますし、逆に大阪事務所から東京や福岡へ異動していくメンバーもいます。カウンセラーによるカウンセリングを通じてキャリアを見つめ直す機会が用意されているのも、主体的に異動をする上での支えになっていると感じます。

Katayama 名古屋事務所では、女性として私が一番上のキャリアにあります。後輩の皆さんに多様なロールモデルを通じてキャリアの幅を見てもらうことが、これからの私のビジョンです。チャンスがあればぜひパートナーへの道を目指したいですね。

Amano 私はこれまで海外のビジネスについての知見を磨いてきたので、今後もさらにグローバル企業への貢献を続けていきます。そして片山さんと同じく、パートナーを目指したいと考えています。

Katayama 拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を拓いていきましょう。

※2 次世代を担う人材を対象とする人材育成プログラム

EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)」をパーパスとしています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起 (better question) をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは ey.com/ja_jp/people/ey-shinnihon-llc をご覧ください。

© 2022 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp